

品川消防署訪問レポート

Ikedayama Neighborhood Council のマリエル・ゴリセンさんと1月13日(火)、防災計画についてうかがうため品川消防署を訪問しました。

以下は、日本人の私たちにも助けとなる情報です。

■津波

東京湾の形状から最も高い津波で2.6mほどになる。但し破壊的なものではなく徐々に浸水するという感じだろう。東京都民としてはパニックになる必要は無いが、海抜2.6m以下の地域の地下室は大変危険だ。

海岸部の水門は港湾局が震度4で閉めるが、それはあくまで運河を守るためであって、その他の箇所から浸水はする。

■大地震

池田山の場合、家屋が大丈夫なら自宅で待機すること。余震が残るときに下手に外に出て行くと逆に危険な可能性もある。

隣近所で声を掛け合う関係を日常的につくっておくこと(大丈夫ですか、と大声で呼びかける必要がある)。

自宅待機している場合、情報は避難所(第三日野)まで時々取りに行かなければならない(例えば協議会の会員同士でお互いに情報をシェアすることも考えられる)。

家の中で危険なのは家具の転倒(防止策をとってほしい)。

家の外で危険なのは電柱が倒れること(東北震災では実際に数多く起こっていた)。

■防災計画など

住民がまとまれば、消防署に誰かの自宅まで来てもらって、具体的に危険箇所を教えてもらったり、防災の説明を受けることができる。

空き家の防災対策が難しい(消防署が災害発生を監視できているのは病院などに限られている)。

火災は、品川区の場合、住宅より情報機器を使うオフィスでの火事が実際ほとんどなので、自宅で仕事をしている人はパソコンなど気をつけること。